

しんぎよう

浄土真宗本願寺派（西本願寺） 真楽寺報

令和六年六月

ひふつじゆみようぎゆうごにんみんむりようむへんあ
彼仏寿命及其人民無量無辺阿
僧祇劫故名阿弥陀

「かの仏の寿命、およびその人民（の寿
命）も無量無辺阿僧祇劫なり。ゆえ
に阿弥陀と名づく。」

『仏説阿弥陀経』の中で、お釈
迦様が阿弥陀如来のお名前につ
いて、「この仏様の光明はあらゆる
ものを照らして届かないところ、
さえぎられるものがなく、そして
この仏様の寿命、この仏様の世界
の人の寿命も、尽きること無く永
遠にわたるものだから阿弥陀（無
量光、無量寿）とおよびするので
す。」と説かれるところがありま
す。ここに、光寿無量の阿弥陀如
来の世界であるお浄土の人となつ
たら、阿弥陀如来と同じ無量寿
となると示されているのです。

今、限られたいのちを生きる私
たちは、「成さなければならぬこ
とがある」、「今、遇わなければな
らない人がいる」、「残しておけ
ないものがある」、「だから死ぬに
死ねない」と思っても、生きる縁が
尽きたならば、何時であろうが終

えていかなければなりません。そこ
には様々な憂いや悩み、悲しみや
苦しみが幾重にも重なります。こ
の姿を見通された如来の、平等に
一切を救う本願の世界に導くた
めの様々な手立てが施されてい
ます。無量寿は、全てのものに必
ずさとりを開かせる阿弥陀如来
のはたらきの現れです。

今、NHKで『寅に翼』というド
ラマが放映されています。いわゆる
朝ドラです。

日本で女性初の裁判官、そし
て裁判所所長にもなった三淵嘉
子さんがモデルのこのドラマは、女
性であるがゆえに学ぶ機会が奪
われる、仕事を得られない、家柄、
家庭に縛られてしまう姿、人種
や出自による差別、戦争によつて
生きる権利が蹂躪される等々、
社会状況により人間の自由が奪
われているという大変重い問題を
取り上げています。しかし、主人
公はそんな差別や偏見にたいし
て「はて？」と首をひねりながら
疑問を投げかけます。柔らかなく、
それでも、深く考えさせてくれる

物語です。舞台はアジア太平洋
戦争のころの話ですが、今も根本
的には解決出来ない事柄が
滲み出てきます。

劇中で、弁護士にはなつたもの
の沢山の壁に行く手を阻まれ、仕
事を諦めざるを得なかつた主人
公・寅子に、徴兵され戦地に向か
う夫・優三が、世間に惑わされる
ことなく自分らしく思いのままに
生きることをすすめていました。

戦後、新しく制定された日本
国憲法の第十四条、「法の下の評
等」の条文を読みながら、戦死し
た夫の「トラちゃん好きに生き
ることです」という言葉を胸に、寅
子は再び裁判官になる道を歩み
出します。自分のことを本当に理
解してくれる人の願いは、様々な
障害を乗り越えていく力になる
のでしょうか。出会いは過去の事実
であつても、そのはたらきは「今」
を生きる力になります。そして、そ
の力には終わりはありません。

阿弥陀如来の誓願は、凡夫を
おさめ取つて浄土に生まれさせ、
さとりを開かせる力です。この本
願力に遇えば、たとえ限られた
のちであつても空しく過ぎる人生
ではなくなります。親鸞聖人は
「久しく願海にいらて深く仏恩を

知れり」と述べられました。ここに
は阿弥陀如来の智慧と慈悲に生
かされる念仏の人生を歩みはじ
めて長い年月が経つたことを「久
しく」と言われていますが、時空
を越えた久遠の願海に帰入して、
真実信心の念仏を喜んでいる恒
常の「今」を「久しい」と表現され
てもいるのでしょうか。

凡夫の私が浄土往生成仏の
道を歩む、この仏恩を知れば限り
なく続くご報謝の生活も広がつ
ていきます。

◎長崎教区平和のつどい

全戦没者追悼法要のお知らせ

長崎教区主催の全戦没者追悼
法要をお勤めします。

どうぞご参詣下さい

記

期日 八月八日（木）

時間 午後二時～四時半

会場 本願寺長崎教堂

諫早市新道町五十一三

記念講演講師

安田菜津紀さん

フォトジャーナリスト

安田さんは国内外の様々
な国や地域で難民、貧困、
災害等を取材し、それを基
に平和を目指す活動に取り
組んでおられます。

◎夏法事について

お釈迦様の時代から続く安居（あんご）という行事があります。インドには長い雨期があり、その間仏弟子たちは精舎（寺院）にこもって修行に専念されたと言います。激しい雨の中では遊行（布教活動）が難しいこともあったでしょうし、歩くことが草木や虫などのいのちを傷つけることがないようにと努められたようです。日本でも各宗派ごとに安居が勤められ、本願寺でも夏の最中に学僧たちが教学研究をしています。一切衆生を救うと立ち上がられた阿彌陀如来のはたらきを間違いなく領解し、それをしっかりと伝えるために行うのが浄土真宗の安居です。

さて、私たちの先達である浄土真宗の御門徒方は、梅雨の最中で、かつ暑さの真つ盛りの中、農作業を一段落させて仏法聴聞のお座にお詣りしてこられました。そのすがたが、仏法を御縁の人に弘めるはたらきもなしていたようです。

私のいのちの由来、有るべき姿、そして行く末を如来様に尋ねていくこの御法座が「夏法事」です。

◎真楽寺夏法事

期日 七月六日（土）、七日（日）

時間 午前九時半～十一時半

会処 真楽寺本堂

※七月五日（金）午前九時から、本堂境内の清掃をします。ご都合つかれます方はご加勢をお願いいたします。

◎真楽寺歡喜会（盂蘭盆会）法要

お浄土に往生された方々は、普く一切の生きとし生けるものを救うという阿彌陀様のように大いなるお慈悲を施されています。

お盆は、先だったお方を仏様として礼拝し、讃嘆する御法縁です。

真楽寺の盆の法要をお勤め致します。どうぞご参詣下さい。

日時 八月十六日（金）

午前九時半より

於 真楽寺本堂

◎今年の盆経について

各ご家庭での盆経は、昨年と同様の形でお勤めします。八月十三日から十五日はこの一年に御往生なされた方のご家庭に初盆のお勤めに参ります。

初盆以外の方でお詣りをご希望の場合は、八月一日から十二日までの期間でお勤めさせて頂きます。特にご希望があればそれ以外の日でも可能です。七月十六日（火）までに真楽寺（五二一五〇一八）にご連絡下さい。

すでに御依頼の方、また、これから御依頼の方には、葉書でお詣りの日時をお知らせ致します。

◎念仏奉仕団のお知らせ

令和六年度の京都の御本山、西本願寺での念仏奉仕団の旅を実施します。

御本山での清掃奉仕から兵庫県の城崎温泉、東井義雄記念館、城下町出石などを訪れる予定です。お誘い合わせてご参加下さい。

期日 九月二十六日（木）

～二十八日（土）

内容 西本願寺での念仏奉仕

帰敬式

天の橋立、城崎温泉

コウノトリの郷公園

東井義雄記念館

城下町出石

申込 真楽寺に用意しています

募集要項をご覧の上、

七月十六日（火）までに

お申し込み下さい。

団費 八万九千円

※帰敬式は仏祖の前で浄土真宗の門徒としての帰敬の心を表わす儀式です。「おかみそり」ともいうこの帰敬式を受けて、法名（仏教徒としての名前）を頂きます。まだ受式していない方で、御希望の方は申込書に御記入下さい。

（奉仕団参加費のほかに、帰敬式冥加金として一万円が必要です。）

◎九月以降の法要

◆秋季彼岸会法要

期日 九月二十一日（土）

～二十三日（月）

法話 真楽寺所属僧侶

◆秋の法要

期日 十一月十六日（土）

～十八日（月）

法話 奈良県吉野

本願寺派布教使

花岡静人師

◎毎月の行事案内

（一月、八月を除く）

◆月例法座

第一日曜日 午前九時半より

◆家族礼拝

第二日曜日 午前九時より

◆親鸞聖人御命日法要

十六日 午前九時半より

◆門徒会

十六日 午前十時半より

◆富の原真楽寺月例法座

第三日曜日 午後二時より

※第二土曜日の聞信会はしばらくお休みします。

大村市木場一丁目八五番地二
真楽寺 電話五二一五〇一八

<https://www.shingyouji.com/>